

## 事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	女性相談事業	コード	161302
-------	--------	-----	--------

2 担当部課	部等 企画政策部	課等 企画課	作成者 松村 佳江
--------	----------	--------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて		
		政策	総合計画の推進に向けて	施策	市民総参加のまちづくり
		予算科目	女性相談事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	岡谷市男女共同参画条例		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	様々な悩みを抱え相談に訪れた市民（女性）の悩み解決		
目的	対象者	様々な悩みを抱え相談に訪れた市民（女性）	
	意図	市民（女性）が抱えている様々な悩みの相談	

5 事業の実施内容	*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
<p>女性が直面している様々な悩みや、日ごろ抱えている諸問題の相談に対応するため、女性相談員による女性のための相談窓口を開設した。</p> <p>開設日時：毎月第3火曜日 10：00～15：50 1日5人（1人50分） 予約制</p> <p>相談費用：無料</p> <p>開設日数：12回</p> <p>相談者数：延べ43人</p>			
前年度の課題への対応	出張フォーラムなどでチラシを配布するなどPRに努めた。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
① 活動指標（指標名）	開設時間			単位 時間
実績値	60	60	60	
*指標の説明				
② 成果指標（指標名）	カウンセリングで効果があった人数			単位 人
目標値	25	25	25	25
実績値	23	17	18	
達成度	92.0%	68.0%	72.0%	
*指標の説明	相談者のうち相談を完了した人			
*目標値の設定方法の説明	前年度の実績を考慮			

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	178,832	170,760	168,816	169,000
経常経費	178,832	170,760	168,816	169,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	800,000	800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10
③ 合計コスト(①+②)	978,832	970,760	968,816	969,000
前年度比		99.2%	99.8%	100.0%
財源	978,832	970,760	968,816	969,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	16,314	16,179	16,147	
前年度比		99.2%	99.8%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額 0 割合 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	105.9%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。		0
成果指標の目標値 達成度		72.0%

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) あらゆる機会を通じて周知し、一人でも多くの悩みを抱えた女性の悩みを解決できることが必要である。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 引き続き、一人でも多くの相談者を受け入れられる配慮や体制づくり（チラシの設置、新聞記事掲載等PR）に努めたい。
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	
-----------	--------	-------------------------------------------	--